

V. 特記事項

1. 若手教員の研究活動支援

研究活動については、特に若手教員の育成に力を注いでおり、研究費の配分の他、インセンティブ研究費 270 万円、卒業研究に 170 万円、奨励研究 100 万円を確保し、教員の研究活動への支援と刺激を与えている。

若手教員も大学の支援に応じるように、研究活動を活性化させており、大学となって初めて応募対象となった文部科学省科学研究費助成事業への応募数が初年度は若手教員を中心に 16 件、採択数が 7 件となった。科学研究費助成事業等による外部資金導入以外では、これまで、①随筆論文が海外の学会での受賞（（アメリカスポーツ整形外科学会）（AOSSM）の 2017 年の T. David Sisk Award (Best International Paper)）が 1 件、②ポスター発表での受賞（（第 20 回ヨーロッパ整形外科学会）ジャック・デュパルク賞（EFORT Jacques Duparc Award 2019））が 1 件、③海外での論文発表（スイス・ジュネーブ市にて行われた世界理学療法士連盟学会）が 1 件、④「PLOS ONE」に掲載した論文が、2018 年に発表された同誌内で被引用数トップ 10%にランクインが 1 件、国内の学会等においても、⑤優秀演題賞（口述部門）を受賞（第 69 回 北海道理学療法士学術大会）、⑥日本予防理学療法学会最優秀演題賞を受賞した他、⑦国際誌へ論文の掲載が 5 件、⑧国内学会での研究発表（第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会）や⑨シンポジストを務める（第 46 回日本足の外科学会学術集会）等の実績をあげている。

2. 海外研修の実施

令和 4（2022）年 8 月 15 日（月）から 8 月 19 日（金）の 5 日間にわたり、オンラインによる海外研修を行い、12 名の学生が参加した。

この海外研修プログラムは、海外の医療について学ぶ機会を提供し、国際的な教養と視野を備えた理学療法士・作業療法士を養成するため、2022 年度からスタートした。

ニュージーランドの「ワイカト工科大学（Waikato Institute of Technology）」の協力のもと、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、オンラインで開催され、プログラムの目的は、医療英語のレッスン、海外（ニュージーランド）の文化や医療制度に関する講義、現地の学生や医療関係者の方々との交流を通じて、医学英語の基礎力向上とともに、医療人としての国際性を身につけることである。

初日に歓迎とニュージーランドについての紹介、ニュージーランドの医療用語や医療制度について学んだあと、2 日目以降は、ニュージーランドの文化について、理学療法・作業療法の英語表現、ニュージーランドのプライマリーヘルス、オンラインでの臨床演習やディスカッションなどが行われた。

参加した学生のアンケートでは、「楽しい 5 日間でした！」「今後も英語で話す機会があれば、積極的にかかわっていきたいです」「また機会があれば参加したい」「楽しかったの次も予定があったら参加してみたい」との声があるなど好評であり、次年度以降も、海外研修プログラムを実施していく予定である。